

鹿児島大学 共通教育棟周辺の植物

Plants around General Education
Buildings, Kagoshima University

植物学入門資料2017年
鈴木英治 Eizi Suzuki

はじめに

- この図鑑は、鹿児島大学の共通教育棟周辺で見られる樹木74種について、写真で説明したものです。
- 植物の基本的な形で分けてあります(用語の説明は3~5ページに)。
(青い文字をクリックすると、そのページに移動します。)
- 種別の説明は下のグループ別に、11~84ページにあり、グループ内では、およそ葉の小さい種から大きい種へ並んでいます。同じグループの植物は、同じ色の背景になっています)
- 84ページ以下に、和名順(学名付)、科名順の種名リストがあります。科名は最近の分子系統によるもの(APG)に基づき、以前は別の科名だった場合には旧として併記しました。

番号	グループ	単・複葉	付き方	鋸歯	葉全体の形
1	A(針・鱗)	針葉・鱗片葉			
6	B(掌状)	掌状葉(ヤシ・カエデ類)			
14	C(複対全)	複葉	対生	全縁	
	なし			鋸歯	
15	D(複互全)		互生	全縁	
22	E(複互鋸)	鋸歯			
25	F(単輪全)	単葉	輪生	全縁	
26	G(単対全)		対生	全縁	
33	H(単対鋸)			鋸歯	
40	I(単互全)		互生	全縁	
57	J(単互鋸)	鋸歯			

A 針葉・鱗片葉



B 掌状葉

葉脈が葉の基部からいくつにも分かれて、手のひらの様な形になる葉（最小3裂）。



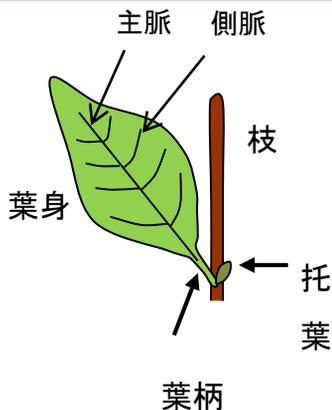
F-J 円形～楕円形の単葉

普通の葉は葉脈が主脈とそれから羽状に分かれた側脈があり、全体として楕円形に近い形をしています。枝につながる**葉柄**と広い部分の**葉身**があります。葉柄基部に小さな葉のような**托葉**をつける種もあります。

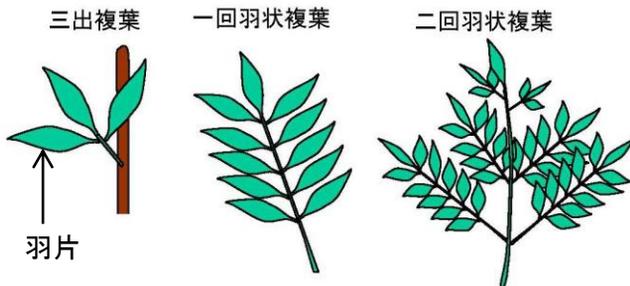
普通は葉身は右図のように1つで、これを**単葉**と言います。

側脈に沿って切れ込みが入り、下図のように何枚かの葉身になった葉を**複葉**と言います。

複葉は葉身がいくつかの**羽片**に分かれているかで、3つならば**三出複葉**、鳥の羽根のように1回分れていれば**一回羽状複葉**。羽片が再度分かれていれば**二回羽状複葉**。



C-E 複葉



複葉と単葉が集まった小枝の区別:時々難しいことがあります、以下の基準で見分けてみましょう。

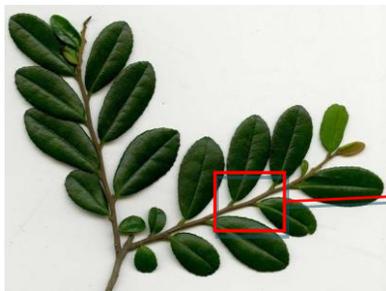
複葉は、元々1枚の葉が分かれたので、羽片全部が1平面にあります。

葉が立体的に色々な方向に出ていれば、それぞれが単葉です。



ただし平面的に広がる単葉もあり、複葉と間違えやすいです。

左の植物の葉の基部を拡大すると芽があるので、小さい葉それぞれが単葉とわかります。(葉の途中に芽はない)



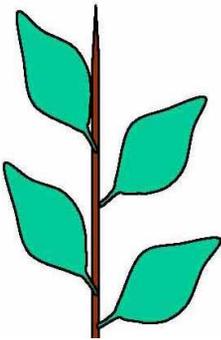
常緑樹：一年中葉がある。葉が厚く色も濃いことが多い。

落葉樹：冬などには葉がない。葉が薄く、色も薄いことが多い。

葉のつき方

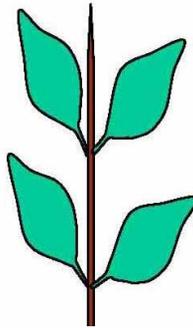
注意：複葉の場合、複葉全体が茎にどのようなようにつかを見る。
(羽片が羽軸にどのようなようにつかではない)

互生



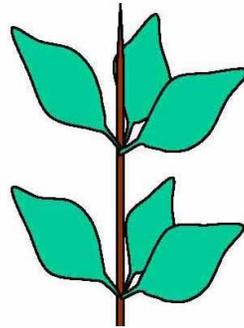
枝の1カ所に
1枚の葉

対生



枝の1カ所に
2枚の葉

輪生



枝の1ヶ所に3枚
以上の葉

葉の縁

全縁



なめらか

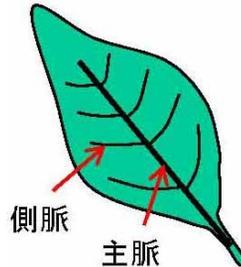
鋸歯縁



ギザギザ

葉脈

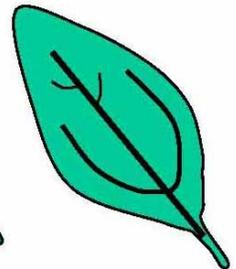
羽状脈



側脈

主脈

三主脈



検索1(A,B)針葉・掌状葉

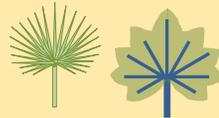


A(針葉・鱗片葉で広い葉がない)



番号	種名	特徴
1	ヒマラヤスギ(マツ科)	長さ約5mの針葉
2	クロマツ(マツ科)	長さ約10mの針葉
3	モミノキ(マツ科)	長さ約3mの針葉。先端が二股
4	イヌマキ(マキ科)	長さ10cm、幅1cmほどの針葉にしては広い葉
5	カイツカイブキ(ヒノキ科)	鱗片葉が茎を多い茎全体が緑
6	トクサバモクマオウ(モクマオウ科)	葉は毛のように退化し茎そのものが緑

B(掌状葉)



番号	種名	特徴
7	シマウリカエデ(ムクロジ科)	葉は対生。3浅裂
8	モミジバフウ(フウ科)	葉は互生。5~7裂。縁に細鋸歯。葉身長約10cm
9	アオギリ(アオイ科)	葉は互生。約3~5裂。縁は全縁、葉身調約20cm
10	シュロチク(ヤシ科)	葉の長さ50cm程度、茎直径約3cm
11	トウシュロ(ヤシ科)	葉の長さ1m以下、茎直径約10cm
12	ビロウ(ヤシ科)	葉の長さ1-2m、茎直径約20cm、斜めになることが多い
13	ワシントンヤシ(ヤシ科)	葉の長さ1-2m、茎直径約30cm、まっすぐ伸びる

検索2(C,D,E) 複葉



C(複葉 対生 全縁) 葉全体が茎に対生

番号	種名	特徴
14	シマトネリコ(モクセイ科)	葉全体の長さ20-30cm

D(複葉 互生 全縁) 葉全体が茎に互生



番号	種名	特徴	
15	カイコウズ(マメ科)	1 回 羽 状 複 葉	小葉は3枚で丸い。葉全体長約20cm
16	ホソバデイゴ(マメ科)		小葉は3枚で細い。葉全体長約20cm
17	キソケイ(モクセイ科)		小葉は5-7枚。葉全体長約10cm
18	ソテツ(ソテツ科)		小葉は数十枚、葉全体長約1m
19	ブラジルヤシ(ヤシ科)		小葉は数十枚、葉全体長約2m
20	カナリーヤシ(ヤシ科)		小葉は数十枚、葉全体長約2m
21	ナンテン(メギ科)		2-3回羽状複葉、葉全体長20-40cm、低木

E (複葉 互生 鋸歯) 羽片の縁が細かな鋸歯になっている

番号	種名	特徴
22	ヒイラギナンテン(メギ科)	硬い1回羽状複葉、小葉が広い、低木
23	ホソバヒイラギナンテン(メギ科)	硬い1回羽状複葉、小葉が細い、低木
24	センダン(センダン科)	大きな2-3回羽状複葉、高木

検索3 (F, G, H) 単葉 (輪生・対生)



F (単葉 輪生 全縁)

番号	種名	特徴
25	キョウチクトウ(キョウチクトウ科)	3輪生、ちぎると白汁がでる

葉身の欄は葉身長を表します(cm)。ただし変異が多いので、およその目安です。



G (単葉 対生 全縁)

番号	種名	常落	葉身	特徴
26	ヒトツバタゴ(モクセイ科)	落	5	丸い葉の落葉樹
27	ハクチョウゲ(アカネ科)	常緑	1	葉が小さく、高さ1mほどの低木
28	キバンジロウ(フトモモ科)		4	葉が厚く、皮が赤茶色の低木
29	トウネズミモチ(モクセイ科)		8	葉脈がほとんど見えない。
30	クチナシ(アカネ科)		15	托葉がある。
31	グアバ(フトモモ科)		10	葉に毛があり、脈が表でくぼむ
32	フトモモ(フトモモ科)		20	細長く濃い緑色の葉

次のHの[ウスギモクセイ](#)、[サンゴジュ](#)も、時にほぼ全縁になる



H (単葉 対生 鋸歯)

番号	種名	常落	葉身	特徴
33	アジサイ(アジサイ科)	落	10	広い楕円形の葉
34	ツクバネウツギ(リンネソウ科)	常緑	3	菱形に近い葉
35	ゴモジュ(レンプクソウ科)		5	葉をちぎると臭い、小枝が茶色
36	マサキ(ニシキギ科)		5	臭わず、小枝が緑
37	ギンモクセイ(モクセイ科)		10	広い楕円形で堅い葉
38	ウスギモクセイ(モクセイ科)		10	より細い楕円形
39	サンゴジュ(レンプクソウ科)		13	葉柄が茶色



検索4(I) 単葉・(互生・全縁)

番号	種名	常落	毛	葉身	特徴
40	イチヨウ(イチヨウ科)	落葉	なし	5	扇型の葉
41	ナンキンハゼ(トウダイグサ科)			5	葉柄が長く、葉先の長く伸びる。
42	イヌビワ(クワ科)			10	ちぎると白い汁。楕円形で基部が浅い心形
43	ハクモクレン(モクレン科)	常緑	あり	15	倒卵形の葉
44	サツキ(ツツジ科)			4	茶色の毛がある細い葉
45	ツツジ(ツツジ科)	常緑	なし	6	茶色の毛がありサツキより大
46	タチバナモドキ(バラ科)			4	小枝がトゲ状になる。
47	モッコク(モッコク科)			5	葉柄が赤く、細く厚い葉
48	クロガネモチ(モチノキ科)			5	葉柄が赤く、広い葉
49	スダジイ(ブナ科)			6	葉裏が金色
50	イスノキ(マンサク科)			6	葉に虫エイがあることがある
51	クスノキ(クスノキ科)			8	3主脈。ナフタリンの臭い
52	ミカン(ミカン科)			8	葉柄に翼がある
53	トベラ(トベラ科)			8	細い葉で細脈見える。臭い
54	アコウ(クワ科)			15	ちぎると白い汁。小判型
55	ユズリハ(ユズリハ科)	20	裏が白い。		
56	ダイサンボク(モクレン科)	あり	20	裏が茶色の毛でおおわれる	

[シャリンバイ](#)もほぼ全縁の葉を持つことがある。

葉身の欄は葉身長を表します(cm)。ただし変異が多いので、およその目安です。

検索5 (J) 単葉 (互生 鋸歯)



番号	種名	常落	毛	葉身	特徴
57	エノキ(ニレ科)	落葉	少し	5	3主脈がある。側脈約3対
58	ケヤキ(ニレ科)		なし	10	側脈約10対。
59	ムクノキ(ニレ科)		少し	10	3主脈がある。側脈約8対
60	サクラ(バラ科)		なし	10	葉の基部に蜜腺がある
61	チシャノキ(ムラサキ科)		少し	15	少しざらつく葉
62	マメツゲ(モチノキ科)		常緑	なし	2
63	ハマヒサカキ(ツバキ科)	なし		3	脈に沿って葉がくぼむ
64	サザンカ(ツバキ科)	僅か		4	全体に細鋸歯。光沢
65	ヤブツバキ(ツバキ科)	なし		8	全体に細鋸歯。光沢
66	ウバメガシ(ブナ科)	あり		4	葉裏に毛。丸葉
67	イチイガシ(ブナ科)	あり		8	葉裏に毛。細葉
68	シラカシ(ブナ科)	なし		10	葉裏が少し白い、細葉
69	アラカシ(ブナ科)	なし		10	葉裏が少し白い、広葉
70	シャリンバイ(バラ科)	なし		10	細葉 裏に細脈見える
71	ホルトノキ(ホルトノキ科)	なし		13	細葉 赤い古葉がある
72	ヤマモモ(ヤマモモ科)	なし		13	上の種に似て、赤い古葉がない。
73	ハイビスカス(アオイ科)	なし		13	3主脈があり、時に三裂
74	バクチノキ(バラ科)	なし		15	葉の基部に蜜腺

葉身の欄は 葉身の長さを表します(cm)
ただし変異が多いので、おおよその目安です。

1. ヒマラヤスギ(マツ科) *Cedrus deodara*

特徴:長さ約5mの針葉。クロマツに似た葉だが短い。クロマツは10cm位ある。

ヒマラヤスギは枝が互生するが、クロマツは対生や輪生が多い。
ヒマラヤ原産の高木。



2. クロマツ(マツ科) *Pinus thunbergii*

特徴:長さ約10cmの針葉。ヒマラヤスギに似た葉だが長い。

鹿児島県の低地に多い(えびの高原のような高地には幹の赤いアカマツが生育する。

マツは1カ所から2本葉が出るタイプ(クロマツ、アカマツ)と5本出るタイプ(五葉松の仲間)が日本にはある。外国には3本出るタイプもある。



特徴:枝が一ヶ所から何本も出て、対生や輪生になる。(枝は年に一度しか出ないので、輪生の数を数えると年齢がわかる)



クロマツの葉(左)とゴヨウマツ(右)の葉
クロマツは1ヶ所から2枚、五葉松は5枚でる。

3. モミ(マツ科) *Abies firma*

特徴: **先が分かれた針葉**。高木。少し平たい新葉で、裏が少し白い。葉の先端が2股になっているので、マツやヒマラヤスギと区別できる。枝は対生に出る。

クリスマスツリーに使う。分布: 鹿児島でも山地に生育。屋久島～東北に分布



4. イヌマキ(マキ科)

Podocarpus macrophyllus

特徴:針葉樹の仲間だが、幅1cm、長さ10cmほどの、比較的幅の広い葉。

鹿児島県に自生するが、生け垣によく植えられる。鹿児島ではヒトツバと呼ばれることがある。



裸子植物なので、本当の果実は作らないが、写真のように、青い種子の下の柄の部分、赤く柔らかくなり、甘くて食べられる。

Podocarpusの学名はpodo=足、柄がcarpus=果実になっているという意味



5. カイツカイブキ(ヒノキ科) *Juniperus chinensis*

特徴:鱗片葉。低木。長さ1mmほどの鱗片状の葉が対生に出て、茎を覆っている。生垣によく使われる。



1枚の葉



6. トクサバモクマオウ(モクマオウ科)

Casuarina equisetifolia

特徴:毛のような葉で茎が緑。高木。茎が緑色をしている。葉は退化して毛のようになり、輪生している。
針葉樹のように見えるが、被子植物。
奄美や沖縄の海岸に多い。



実



枝が柔らかく、下向きに垂れ下がることが多い。

小枝の拡大図
枝の表面が緑色
葉は節に輪生している
毛のようなもの

7. シマウリカエデ(ムクロジ科) *Acer insulare*

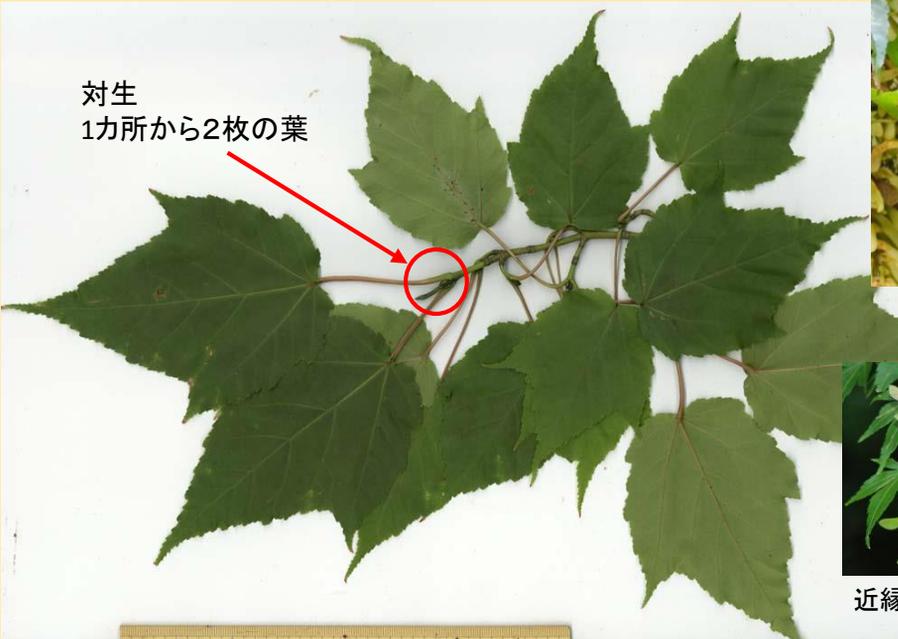
特徴:掌状葉・対生。カエデ科はすべてムクロジ科に含まれることになったが、カエデ類は掌状葉が多い。

この種も3つしか切れ込みがないが、カエデの仲間。カエデ類は必ず葉が対生になる。

奄美大島などに多い。(Acer insulareのinsulareは"島に生育する"という意味)



対生
1カ所から2枚の葉



果実



近縁のイロハモミジ



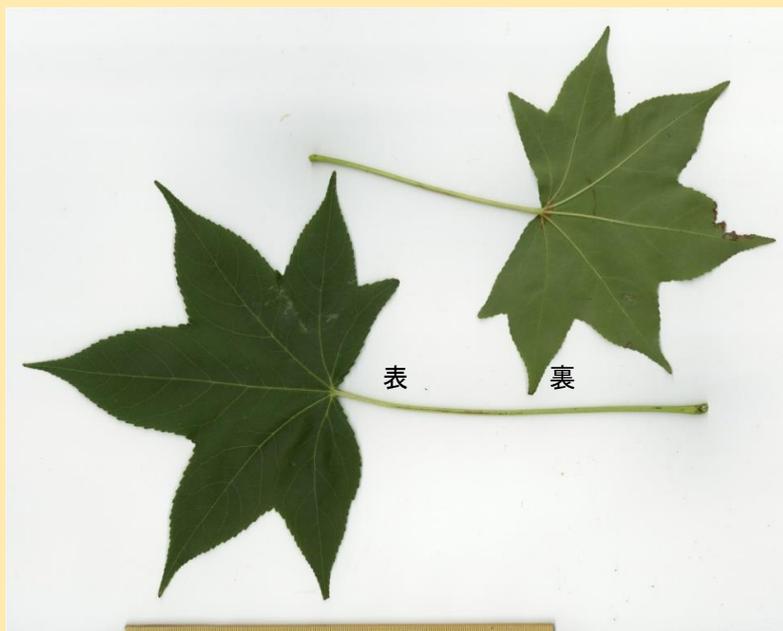
表

裏

8. モミジバフウ (フウ科) *Liquidambar styraciflua* (旧マンサク科)

特徴: 掌状葉・互生。カエデのような葉だが、葉が互生になっているので、カエデではないことがわかる。

アメリカ原産で街路樹によく植えられる。この種は5~7つに葉が避けているが3つに裂けるものがフウで、フウは中国原産



樹皮に縦割れが多い



実

9. アオギリ(アオイ科) *Firmiana simplex*

(旧アオギリ科)

特徴: 3~5裂する掌状葉・互生。アオギリもカエデのような葉だが、葉が互生になっているので、カエデではないことがわかる。モミジバフウより葉が大きい。

モミジバフウは葉の縁に細かな鋸歯があるが、アオギリは全縁。

桐に葉が似ていて、枝が緑色(青い)なので青桐と呼ばれる。



実



若い枝は緑色をして
いるので青桐という



太い幹でも樹皮には滑らか

10. シュロチク(ヤシ科) *Rhapis humilis*

特徴: 長さ50cmほどの掌状葉。茎の直径2-3cm,高さ2-3mの小型ヤシ
南中国原産

似た植物にカンノンチクというヤシがあるが、カンノンチクは羽片が8つ以下で、シュロチクのようにたくさんの羽片はない。



11. トウシュロ(ヤシ科) *Trachycarpus wagnerianus*

特徴: 掌状葉。茎の直径約10cmで、ワシントンヤシやビロウより細く、高さも数mまで。幹の表面が長い毛でおおわれている(この毛を集めてシュロ縄を作る)。葉が先端までピンとしていて曲がっていない。

中国原産のヤシ(唐シュロ)で、ワジュロと呼ばれる日本に自生する近縁種が鹿児島山地にもある。

ワジュロの方が大きく10m近い高さになり、葉の先も曲がることが多い。



12. ビロウ（ヤシ科） *Livistona chinensis* var. *subglobosa*

特徴:長さ2m近い掌状葉。大型のヤシでワシントンヤシに似ているが、幹は、ワシントンヤシより細く、曲がっていることが多い。また幹の基部が太くならず上部と同じ直径。ワシントンヤシほど高くはならない。

海岸部に生えるヤシで、鹿児島県では志布志湾にある枇榔(ビロウ)島に自生。



13. ワシントンヤシ (ヤシ科) *Washingtonia filifera*

(オキナヤシ)

特徴: 長さ2m近い掌状葉。高さ10m以上になる大型のヤシ

ビロウに似ているが、

幹は根元が太く、まっすぐ伸び、ビロウより高くなる。

アメリカ原産で、学名 *Washingtonia* はアメリカ初代大統領 ジョージワシントンにちなむ。



14. シマトネリコ(モクセイ科) *Fraxinus griffithii*

特徴:一回羽状複葉の葉が対生になっていることで、区別は容易。

同じように対生で複葉になるトネリコの仲間は、日本に数種類あり落葉樹で温帯に多く、材は野球のバットなどに使われる。この種は常緑で沖縄から台湾など島にあるのでシマトネリコの名前がある。



15. カイコウズ(マメ科) *Erythrina pulcherrima*

(別名マルバデイゴ)

特徴: 3出複葉・互生・全縁、羽片は丸い楕円形の葉。
沖縄などに自生するデイゴの仲間で、赤い大きな花が咲く園芸品種



裏

表



ホソバデイゴ

カイコウズ



17. ホソバデイゴ(マメ科) *Erythrina crista-galli*

特徴: 3出複葉・互生・全縁。カイコウズに似ているが、葉が細い。サンゴシドウという種も時に植えられるが、サンゴシドウの葉は菱形。



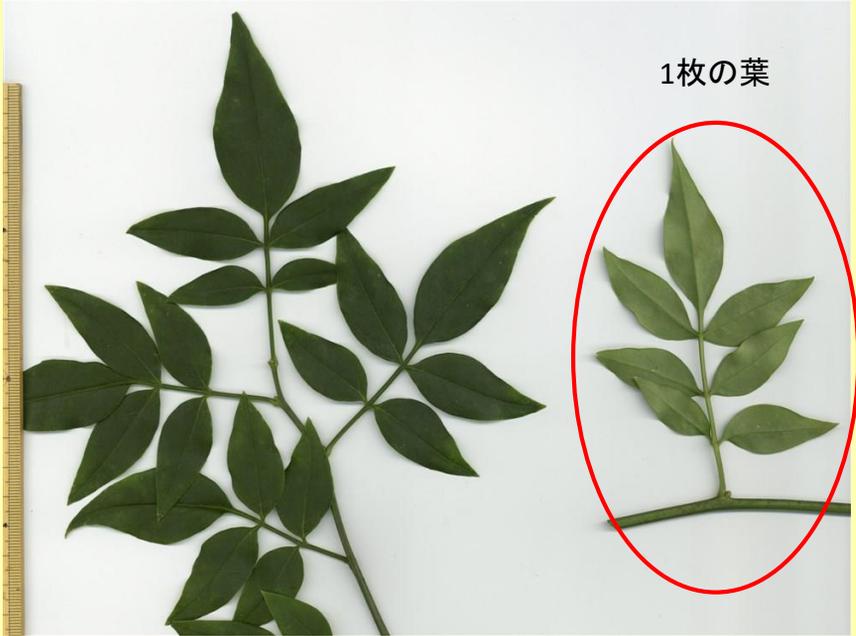
ホソバデイゴ

カイコウズ

17. キソケイ(モクセイ科)

Jasminum humile var. *revolutum*

特徴: 1回羽状複葉・互生・全縁。5-7枚の小さな葉(羽片)が1組になって羽状複葉を作り、それが枝から互生に出ている。高さ1-2mの低木で、ジャスミンの仲間になり、花が咲くと良い香りがする。



18. ソテツ(ソテツ科) *Cycas revoluta*

特徴:1回羽状複葉・互生・全縁。葉は長さ1mほどで、数十の細かい羽片がつく。茎の先に葉が集中してわかりにくい、らせん状に配列して互生。

ヤシの仲間に似た形の葉だが、裸子植物。

鹿児島南部の海岸などに自生。



19. ブラジルヤシ(ヤシ科) *Butia capitata*

特徴: 1回羽状複葉・互生・全縁。長さ2m近くなる長い羽状複葉になる。次ページのカナリーヤシに似るが、それより葉が白っぽく、全体が大きくカーブしている。

名前のように南米原産



20. カナリーヤシ(ヤシ科) *Phoenix canariensis*

特徴: 1回羽状複葉・互生・全縁。ブラジルヤシに似ているが、緑の色が濃い、葉があまり曲がっていない点で区別できる。

属名からフェニックスと呼ばれたり、大西洋にある島のカナリー諸島原産であることを示す種小名のcanariensisからカナリーヤシと呼ばれたりする。生長点を食害するゾウムシが発生したために鹿児島大学構内ではほとんどが枯れ、現在あるものはほとんどが写真のような若い個体だが、将来成長すれば幹の長さが数mになる。



21. ナンテン(メギ科) *Nandina domestica*

特徴:2~3回羽状複葉・互生・全縁。高さ1-2mの低木。葉全体の長さは20-30cm。幹とそれから出る葉だけで枝はほとんどない。

冬に赤い実が熟すが、乾燥させて咳止め薬として使う
(南天のど飴の主成分)



赤線内部が1枚の葉



葉の先端部分、縁に鋸歯がない。



実

22 ヒイラギナンテン(メギ科) *Berberis japonica*

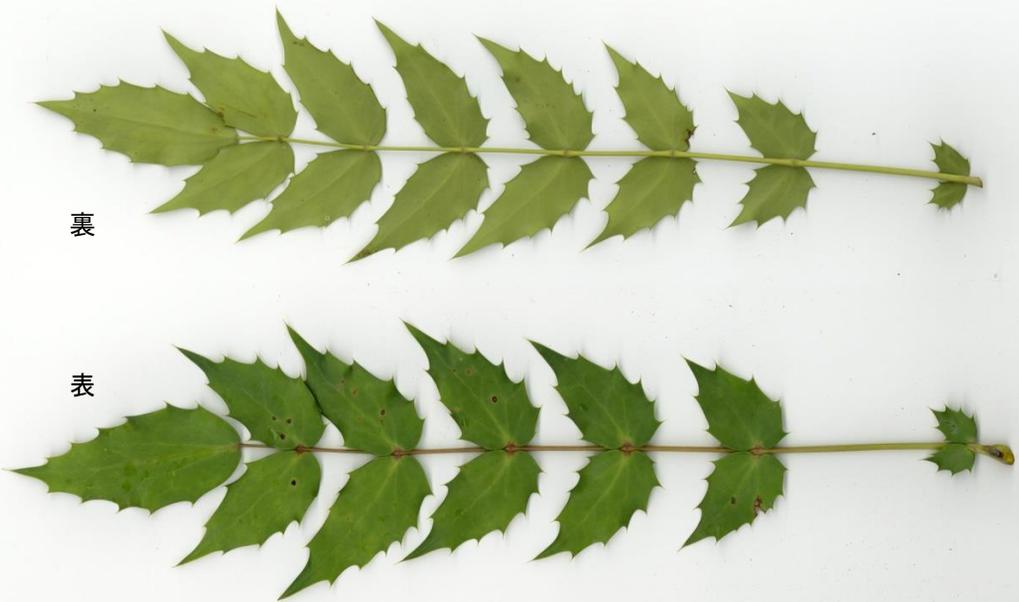
特徴: 一回羽状複葉・
互生、鋸歯。高さ1-2
mの低木。

同じく鋸歯が尖った
ヒイラギを連想させる
ナンテンの仲間なので、
この名前がある。
学名が *japonica* になっ
ているが日本には自
生せず、台湾・中国・ヒ
マラヤ原産



裏

表



23 ホソバヒイラギナンテン(メギ科)

Berberis fortunei



特徴:1回羽状複葉・互生・
鋸歯。高さ1-2mの低木。
一回羽状複葉で、ヒイラギ
ナンテンと同じ属のよく似た
植物で、葉が細いのでこの
名前がある。
中国原産



実



24 センダン(センダン科) *Melia azedarach*

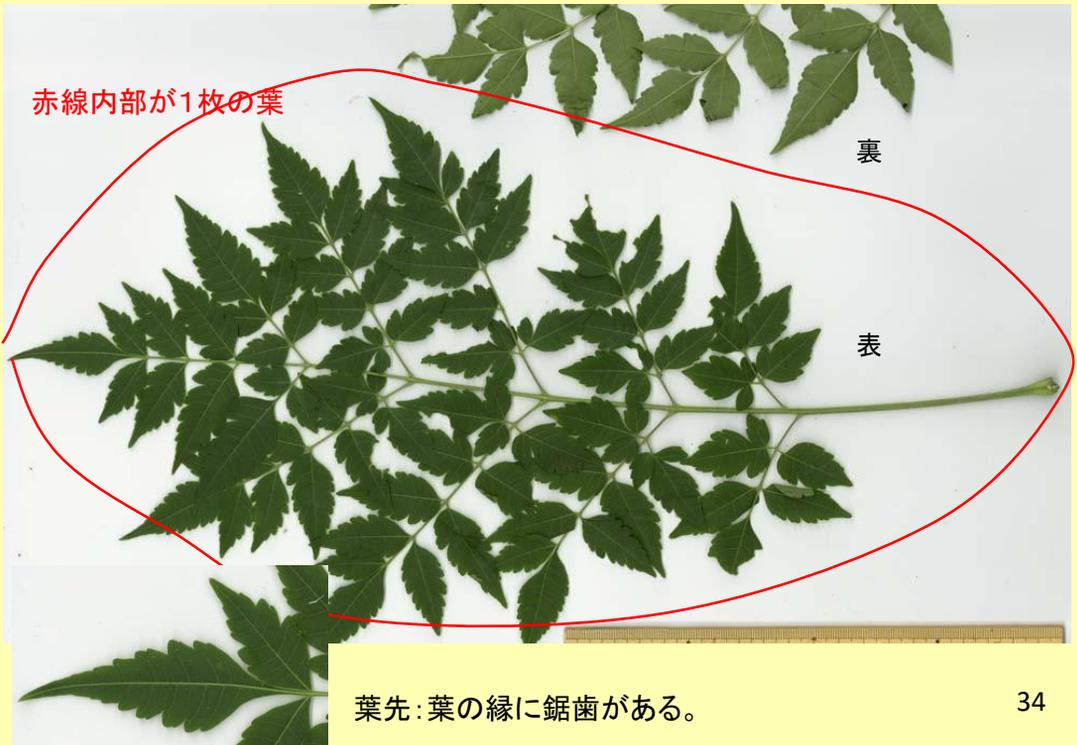
特徴、2～3回羽状複葉・互生・鋸歯。

2～3回羽状複葉はセンダンと、ナンテンしかない。ナンテンは常緑低木で、葉の縁が全縁。センダンは落葉高木で、葉の縁に鋸歯がある。校内には高木だけでなく、自然散布された種子から発芽した幼木も多い。



高木を見あげたところ

赤線内部が1枚の葉



葉先:葉の縁に鋸歯がある。

25 キョウチクトウ(キョウチクトウ科)

Nerium oleander var. indicum

特徴: 単葉・3輪生。長さ15cmほどの葉が、3枚輪生することで区別は容易。ちぎると白い汁が出る。高さ数mで何本もの株になっていることが多い。

インド原産で白やピンク色の美しい花を咲かせるが、葉は有毒で家畜が食べて死ぬことがある。



表

裏



26 ヒトツバタゴ(モクセイ科) *Chionanthus retusus*

G単葉対生

和名順

科名順

特徴: 単葉・対生・落葉樹。丸くて比較的薄い葉がつく。

タゴはトネリコの別名で、トネリコは普通複葉なのに、この種は単葉なのでヒトツバがついた。

野生では稀な種で名前がわかりにくく、ナンジャモンジャノキとも呼ばれる。雌雄異株で春に白い花を多数つける。



27 ハクチョウゲ(アカネ科) *Serissa japonica*

特徴: 単葉・対生・常緑・全縁。長さ1cmほどの小さな葉。高さも1mほどの低木。Japnicaという学名のように、日本国内にも自然分布するが稀。

G単葉対生

和名順

科名順



28 キバンジロウ(フトモモ科) *Psidium littorale*

G単葉対生

和名順

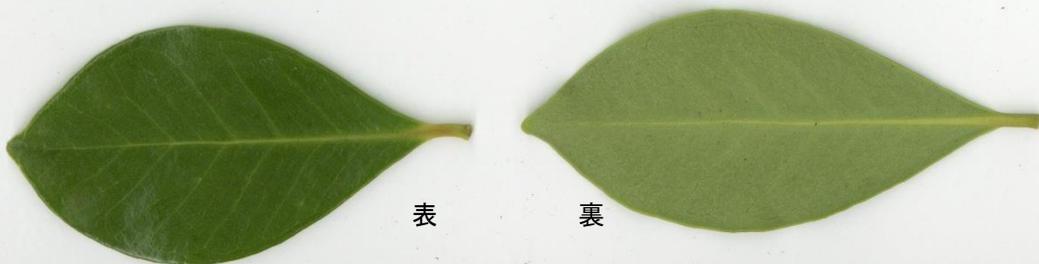
科名順

特徴: 単葉・対生・全縁・無毛 低木。葉が厚くて葉脈が見にくいですが、よく見ると葉の周辺に脈が1本あり、側脈を連結している。フトモモ科の葉に多い特徴。幹は赤茶色。

果樹として栽培され、直径2-3cmの丸い実ができて、おいしい。
南アメリカ原産。



側脈間の連結脈



表

裏

29 トウネズミモチ(モクセイ科) *Ligustrum lucidum*

特徴: 単葉・対生・常緑・全縁・無毛 高さ数mになる低木～亜高木。脈が裏表ともほとんど見えない。中国原産だが、日本にネズミモチというよく似た種があるので、唐ネズミモチと呼ばれる。ネズミは実ができると黒く熟しネズミの糞のように見えるため。



30 クチナシ(アカネ科) *Gardenia jasminoides*

特徴: 単葉・対生・常緑・全縁・托葉・無毛 低木。アカネ科の特徴として葉の付け根に托葉があるが、クチナシの托葉は下の図のように、斜めに切り取った円筒の様な形をしている。写真の実は未熟だが熟すと黄色くなり、食品を黄色くする染料としてよく使われる。大きな花が春に咲き、*jasminoides*の学名のようにジャスミンのような良い芳香がある。

G単葉対生

和名順

科名順



熟した実



31 グアバ(フトモモ科) *Psidium guajava*
(別名バンジロウ)

G単葉対生

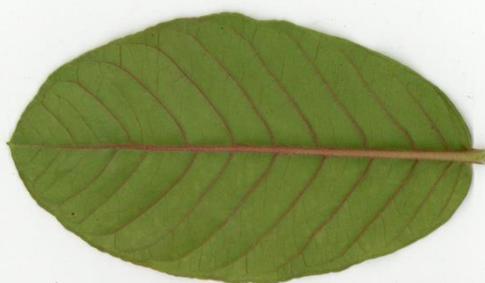
和名順

科名順

特徴: 単葉・対生・全縁・常緑・有毛 高さ5mほどになる。葉は毛があり、常緑だが比較的薄い葉。側脈は葉の表側でくぼみ、裏側に出ている。葉の周辺に脈が1本あり、側脈を連結している。フトモモ科の葉に多い特徴。幹は赤茶色で皮がはがれやすい。果実は生でもグアバジュースとしても利用される。直径5cmほどの黄色い実ができる。熱帯アメリカ原産。



表



裏

32 フトモモ(フトモモ科)

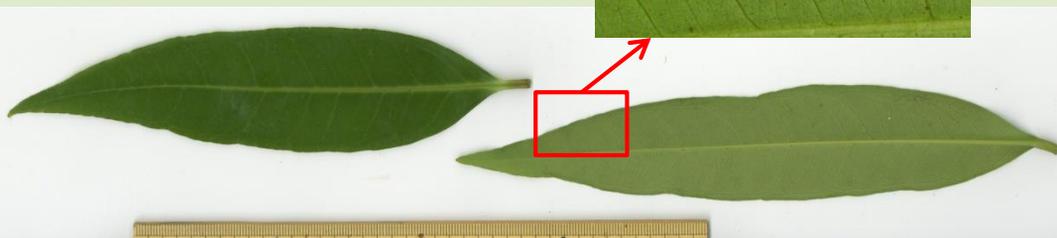
Syzygium jambos

G単葉対生

和名順

科名順

特徴: 単葉・対生・全縁・常緑・無毛 亜高木。葉は、細長く20cm位の長さで、濃い緑色をしていて無毛で革質で、フトモモ科の特徴として、葉の縁に側脈を結ぶ連結脈がある。東南アジア原産。フトモモの名は中国名の蒲桃(ほどう)に由来する。



33 アジサイ(アジサイ科)

Hydrangea macrophylla

(旧ユキノシタ科)

特徴: 単葉・対生・鋸歯・落葉 低木で、丸く大きな葉で鋸歯も明瞭。日本に自生するガクアジサイから多くの園芸品種が作られている。



表



裏



34 ツクバネウツギ(リンネソウ科)

(旧スイカズラ科)

特徴: 単葉・対生・鋸歯・常緑。

H単葉対生

和名順

科名順

長さ2cmほどの小さな葉で上半分に鋸歯がある。生垣によく使われる低木。ウツギ(空木)は茎の中心部が空洞になる樹木につく名前で、白い花が咲くが花びらが散った後もガクが残り、ガクの形が羽子板で打つ追羽根に似ているのでウツギのまえにツクバネがつけられた。



35 ゴモジユ(レンプクソウ科) *Viburnum suspensum*

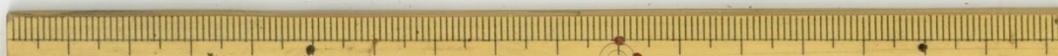
(旧スイカズラ科)

H単葉対生

和名順

科名順

特徴: 単葉・対生・鋸歯・常緑。葉をちぎると臭いにおいがある。マサキに似た葉だが、葉の表面が少し脈に沿ってくぼむこと、葉をちぎると臭いにおいがすること、葉柄や小枝が茶色い事で区別できる。奄美などに自生する低木で、生垣によく使われる。



36 マサキ (ニシキギ科) *Euonymus japonicus*

H単葉対生

和名順

科名順

特徴: 単葉・対生・鋸歯・常緑。ゴモジュに似た葉だが、葉の表面が脈に沿ってくぼまない、葉をちぎると臭いにおいがない、葉柄や小枝が緑色、無毛。照葉樹林内に自生する低木で、生垣によく使われる。実は二股分岐する長い柄の先につき、冬に熟すと赤い種子が出てくる。



秋
の
実



熟
し
た
冬
の
実



37 ギンモクセイ(モクセイ科)

Osmanthus fragrans var. *fragrans*

H単葉対生

和名順

科名順

特徴: 単葉・対生・鋸歯・常緑。低木～亜高木。枝の色が肌色に近い。変種であるウスギモクセイによく似た種だが、葉がより広く、鋸歯が大きい。ただし、写真のように鋸歯のある葉と、ない葉が一つの木についていることもある。若木に鋸歯が多く、老木はなくなる。花が咲くとギンモクセイの花は白く、ウスギモクセイはオレンジ色。学名の*fragrans*が表すように、花は良い香りがする。中国原産



秋に白い花をつける

肌色の樹皮



38 ウスギモクセイ(モクセイ科)

Osmanthus fragrans var. *thunbergii*

特徴: 単葉・対生・鋸歯・常緑 低木～亜高木。枝の色が肌色に近い。変種であるギンモクセイによく似た種だが、葉がより細く、鋸歯が少ない。花が咲くとギンモクセイの花は白く、ウスギモクセイは芋淡いオレンジ色。濃いオレンジ色の花を咲かせるものにキンモクセイ(*O. fragrans* var. *aurantiacus*)があり、葉はウスギモクセイとほとんど同じ。これらの3変種は雌雄異株でいずれも中国から伝わったがキンモクセイはほぼ雄株だけなので結実は稀。

H単葉対生

和名順

科名順



秋に黄色い花をつける



39 サンゴジュ(レンプクソウ科)

Viburnum odoratissimum var. *awabuki* (旧スイカズラ科)

特徴: 単葉・対生・鋸歯・常緑。鋸歯は目立たず、**ほとんど全縁**になっている個体もある。**葉柄が太く、茶色。**葉も比較的厚い。

赤い実が宝石サンゴの様なので、この名前がある。
照葉樹林内に自生。

H単葉対生

和名順

科名順



40 イチョウ(イチョウ科) *Ginkgo biloba*

単葉互生

和名順

科名順

特徴: 単葉・互生・全縁・落葉樹 扇型の葉。中国原産の高木。裸子植物。枝先に葉が集まり輪生のように見えるがよく見ると互生になっている。



41 ナンキンハゼ(トウダイグサ科) *Triadica sebifera*

単葉互生

和名順

科名順



特徴: 単葉・互生・全縁・落葉樹。亜高木。葉柄が長いこと、葉先も長く伸びることで、区別できる。

冬に実が白く熟すが、蠟分を含む。江戸時代などはウルシ科のハゼノキ(櫨)から蠟をとり、ロウソクを作っていたが、ハゼの代わりに蠟を取るために中国から導入されたので南京櫨の名前がある。



42 イヌビワ(クワ科) *Ficus erecta*

！単葉互生

和名順

科名順

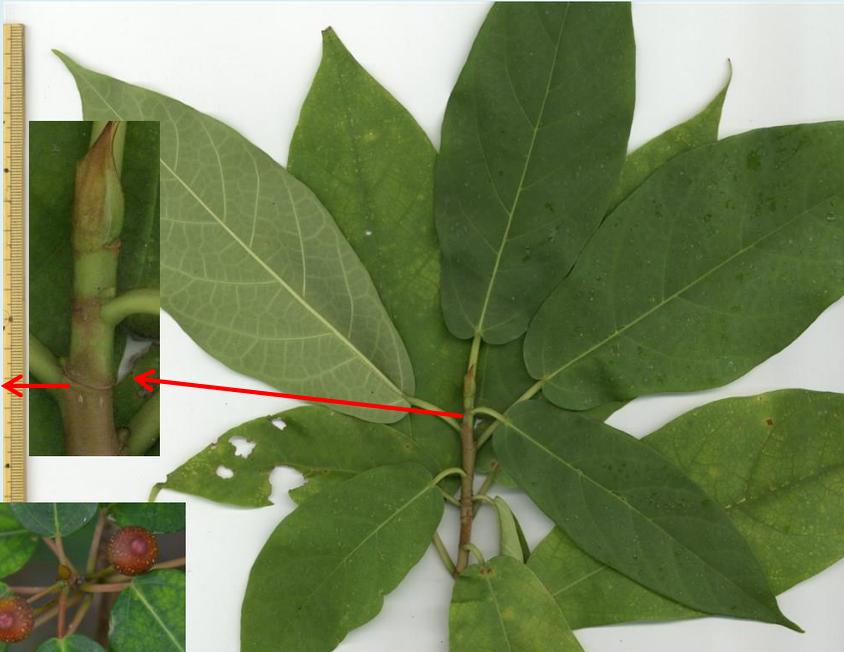
特徴: 単葉・互生・全縁・落葉樹。亜高木。大きな葉で薄い葉だが少しざらつく。イヌビワ属(*Ficus*)全般に見られる特徴として、ちぎると白い汁が出る、葉の基部から2本の葉脈が出る、茎に芽鱗が落ちた痕の筋がある。葉柄との接続部が浅い心形(ハート形、くぼんでいる)。同じ属のイチジクの実を小さくしたような実ができ、これがビワの実に似ているがビワほどおいしくはないのでイヌビワの名前がついた。同じ*Ficus*属に、常緑で小判型の葉の**アコウ**がある。



芽鱗が落ちた痕の筋



イチジクのような実



表

裏

心形

葉の基部から1対の側脈(3主脈)
イヌビワ属(*Ficus*)一般的特徴



43 ハクモクレン(モクレン科)

特徴: 単葉・互生・全縁・落葉樹・有毛。倒卵形(葉柄側を下にした時、卵を逆さにした形)で長さ10cm以上ある葉。亜高木。木だが蓮のような花が咲くモクレン(木蓮)は紫色の花を春先に咲かせ、本種(泊木蓮)は白い花をつける。



枝には葉ごとに、芽鱗が落ちた筋がある(モクレン属の特徴)。



44 サツキ(ツツジ科) *Rhododendron indicum*

単葉互生

和名順

科名順

特徴: 単葉・互生・全縁・常緑・有毛。
高さ1mほどの低木。葉や枝に茶色の毛が多い。ツツジに似ているが葉が小さい。



オレンジ色の
花が野生種



葉裏の毛

溪流の岩場に生息するツツジの一種。洪水時に水没しても痛まないように、葉が小さく細くなっている。

45 ツツジ(ツツジ科) *Rhododendron sp.*

特徴: 単葉・互生・全縁・常緑・有毛。ツツジは多くの園芸品種が植えられているが、久留米で品種改良されたクルメツツジが多い。

サツキもツツジの一種で、他のツツジより葉が小さい。



サツキと同じような毛が生えている。



ピンク系の花が多い

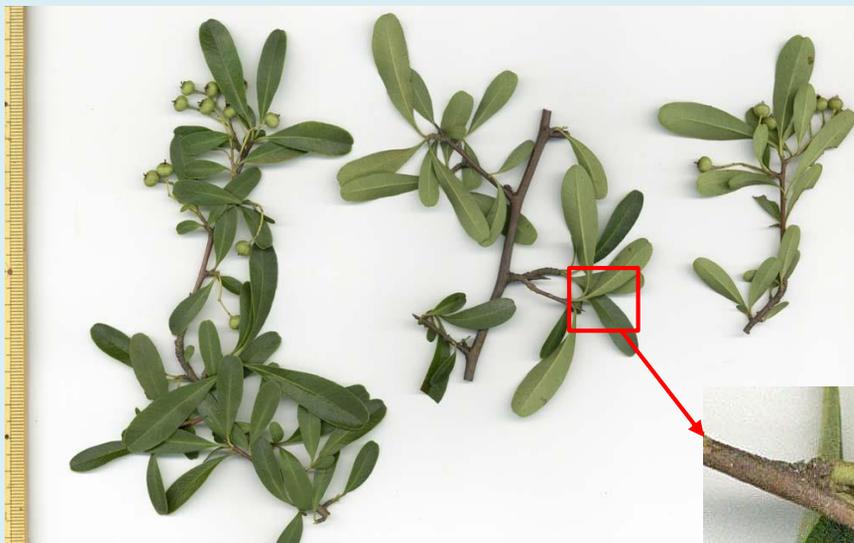
46 タチバナモドキ(バラ科) *Pyracantha angustifolia*

特徴: 単葉・互生・全縁・常緑・無毛。低木。春には若葉には毛があるが、秋にはほぼ無毛。縁もよく見るとわずかに鋸歯があるがほぼ全縁。

単葉互生

和名順

科名順



秋から冬に実が熟すと赤くなる。学名からピラカンサとも呼ばれる。



先端が鋭いトゲになっている枝があり、触ると痛いので、よく生垣に使われる低木。



表



裏

葉裏は少し白い。縁に少し鋸歯があることもある。

47 モッコク(モッコク科) *Ternstroemia gymnanthera*

(旧ツバキ科)

特徴: 単葉・互生・全縁・常緑・無毛。高さ数mになる低木～亜高木。倒卵形を細くしたような形の葉で、厚い。枝先に葉が集まることが多く、輪生のように見えることがあるが、互生。

短い葉柄が赤いことが多い。

赤い葉柄を持つ点でクロガネモチに似ているが、クロガネモチより葉が細く、より厚い点で区別できる。

単葉互生

和名順

科名順



葉の下につく実



側脈はほとんど見えない

48 クロガネモチ(モチノキ科)

Ilex rotunda

単葉互生

和名順

科名順

特徴: 単葉・互生・全縁・常緑・無毛。高さ数mになる垂高木。小判型の葉で、あまり厚くない。短い葉柄が赤いことが多い。赤い葉柄を持つ点でモッコクに似ているが、モッコクより葉が広く、より薄い点で区別できる。冬に赤い実をたくさんつける。常緑樹だが、寒い冬には葉が全部落ちてしまうこともある。



葉の上につく実



表

裏

側脈はほとんど見えない



49 スタジイ(ブナ科) *Castanopsis cuspidata*

特徴: 単葉・互生・全縁・常緑・無毛: 葉の裏が金色で、無毛であることでわかりやすい。また葉の先端が尖っている(学名のcuspidataの意味)。基本的には全縁だが、若い木では鋸歯がある。

鹿児島付近の照葉樹林の優占種



若い木の葉には少し鋸歯があることがある。



葉裏が金色

葉裏が金色をしているが無毛。

50 イスノキ(マンサク科) *Distylium racemosum*

単葉互生

和名順

科名順

特徴: 単葉・互生・全縁・常緑・無毛: 葉が厚く硬い、葉全体の形が楕円形よりも若干いびつであること、しばしばアブラムシが寄生した虫えい(葉についていること)などが区別点だが、区別が難しい種。

鹿児島付近の照葉樹林の優占種のひとつで高木になるが、成長が遅く剪定にも耐えるので、生垣にもよく使われる。堅い材で示現流などの木刀によく使う。



表

裏



葉脈が少し見える



51 クスノキ楠(クスノキ科) *Cinnamomum camphora*

特徴: 単葉・互生・全縁・常緑・無毛: 葉に3主脈があること、葉をちぎると防虫剤のナフタリンの匂いがすることで区別は容易。

鹿児島県の県木で街路樹に最も多い高木。昔はこの材を蒸留してナフタリンを作る(さらにセルロイドなどの原料にする)ために、たくさん植えられた。日本で最も大きくなる木で、蒲生町の大楠が有名。



3主脈

基部近くからでた2本の側脈が、先端付近まで伸びている



52 ミカン(ミカン科) *Citrus*

単葉互生

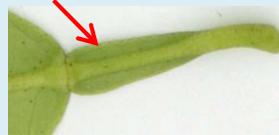
和名順

科名順

特徴: **単葉・互生・全縁・常緑・無毛**: ミカンの仲間は、葉柄に翼があることで区別は容易。低木。



葉柄に翼(葉身の様な薄い膜)





53 トベラ(トベラ科) *Pittosporum tobira*

特徴: 単葉・互生・全縁・常緑・無毛。細脈がよく見えることや全体の葉の形がシャリンバイによく似ている。しかし、葉をちぎると臭いにおいがする。シャリンバイの葉は全縁に近くても鋸歯があるのに、トベラは完全に全縁であることから区別できる。海岸に生える低木。



表

裏



中央より先端部が最も幅広い
(倒卵状長楕円形)

縁は全縁で、中に細脈がよく見える。



実は熟すと3つに裂け、赤い種子が出てくる



54 アコウ(クワ科) *Ficus superba* var. *japonica*

特徴: 単葉・互生・全縁・落葉樹。亜高木。大きな葉でイヌビワより厚く、革質でなめらか。イヌビワ属 (*Ficus*) 全般に見られる特徴として、ちぎると白い汁が出る、葉の基部から2本の葉脈が出る(3主脈)、茎に芽鱗が落ちた痕の筋がある。
同じ*Ficus*属に、落葉樹のイヌビワがある。



芽鱗が落ちた痕の筋

アコウ (小判型の葉、幅が一番広い部分が長い)



表

裏

3主脈

イヌビワ (楕円系に近く、葉柄との接続部が浅い心形)



心形



55 ユズリハ(ユズリハ科) *Daphniphyllum macropodum*

特徴: 単葉・互生・全縁・常緑・有毛: 葉身約20cm、葉柄約5cmの大きな葉で裏が白い。(同サイズで裏が茶色ならば、ダイサンボク)。お正月の飾りに使う葉。自生地は標高約500m以上の山地で、鹿児島市内の低地には、ヒメユズリハ(ユズリハより、葉が小さく、裏の網状脈が細かい)という似た種が自生する。



新葉が出ると旧葉が垂れて、位置を譲るように見えるので“譲り葉”の名前がある。親から子へ家が受け継がれることを祈って、お正月の飾りなどに使われる葉。





56 ダイサンボク(モクレン科) *Magnolia grandiflora*

特徴: 単葉・互生・全縁・常緑・無毛: 葉身約20cm、葉柄約3cmの大きな葉で厚くて表には光沢があり、裏が茶色の毛でおおわれる(同サイズで白ければユズリハ)。

亜高木～高木。Grandiflora の学名のように直径15cmほどの大きな花を春に咲かせるが、木の高い所に咲くのであまり目立たない。アメリカ合衆国原産の木。



直径約15cm
の大きな花



葉裏の毛



芽鱗が落ちた痕の筋がある。
(*Magnolia*属の特徴でハクモクレンと同じ)

57 エノキ(アサ科) *Celtis sinensis*

(旧ニレ科)

特徴: 単葉・互生・鋸歯・落葉・ほぼ無毛: 落葉する高木で、以前はすべてニレ科だったエノキ、ケヤキ、ムクノキの3種が似ているが、右表の性質で区別できる。

性質	エノキ	ケヤキ	ムクノキ
脈	3主脈	羽状	3主脈
鋸歯	上部だけ	全体	全体
質感	ざらつかない	ざらつかない	ざらつく



表



裏

葉の基部が左右不対称。
基部から長い側脈が出ている。
鋸歯が葉の下半分がない。
葉がざらつかない。

58 ケヤキ(ニレ科) *Zelkova serrata*

特徴: 単葉・互生・鋸歯・落葉・ほぼ無毛:

区別点はエノキのページ参照。側脈が直線的に平行に走り10対以上ある。

公園などによく植えられる高木。材も建築等によく使われる。



表



裏



葉の基部が不左右対称。
基部から長い側脈が出ず、羽状の脈。
鋸歯が葉の全体にある。
葉がざらつかない。

サクラにも似ているが、サクラは葉の基部に蜜腺があるのに、ケヤキにはないことで区別できる。

59 ムクノキ(アサ科) *Aphananthe aspera*

(旧ニレ科)

特徴: 単葉・互生・鋸歯・落葉・ほぼ無毛:

区別点はエノキのページ参照。一番下の側脈は下側に2次側脈が出ている。

高木。ケヤキより利用は少ない。ムクノキの名前は葉がざらついてサンドペーパーのようにものを剥くのに使ったためという説がある。



葉の基部が左右対称に近い。

基部から長い側脈が出ており(3主脈)、さらに下側に二次側脈がある。

鋸歯が葉の全体にある。

葉がざらつく。

60 サクラ(バラ科) *Cerasus*
(旧*Prunus*)

単葉互生

和名順

科名順

特徴: 単葉・互生・鋸歯・落葉・ほぼ無毛:
ケヤキに似た葉だが、サクラは皆、葉身基部や葉柄に蜜腺がある。



蜜腺(若葉の時に
蜜を出していた)

学内にはソメイヨシノとヤマザクラ系統があり、
右上のソメイヨシノはガクや花柄に毛があり、
ヤマザクラ系統にはない。



61 チシャノキ(ムラサキ科)

Ehretia acuminata var. *obovata*

単葉互生

和名順

科名順



特徴: 単葉・互生・鋸歯・落葉・ほぼ無毛:
珍しい木で区別が難しいが、柿の葉に似て、葉が少しざらつくことなどが特徴。



62 マメツゲ(モチノキ科)

Ilex crenata f. *bullata*

単葉互生

和名順

科名順

特徴: 単葉・互生・鋸歯・常緑・無毛:

(マメイヌツゲともいい、イヌツゲ(*Ilex crenata*)の園芸品種。

(f. (=forma) *bullata* は、膨れた品種という意味)

イヌツゲの葉は平だが、マメツゲは葉が表側に膨らんで反り返っている。

高さ1mほどの丸く刈り込まれた木が多い。イヌツゲは霧島などに多い。



葉の表面が葉脈に沿ってくぼまない。裏は側脈があまり見えない。

63 ハマヒサカキ(モッコク科) *Eurya emarginata*

単葉互生

和名順

科名順

(旧ツバキ科)

特徴: 単葉・互生・鋸歯・常緑・無毛: マメツゲと同じく、表に膨れた葉になるが、マメツゲは長さ約2cm、ハマヒサカキは約3cm。ただし、日陰の葉は平たい。生垣によく使われる低木。葉の付け根によく花や実がつく。

海岸に生育するヒサカキの仲間なので浜ヒサカキの名がある。



葉の表面が葉脈に沿って筋状にくぼむ。

裏は側脈が見える。

64 サザンカ(ツバキ科) *Camellia sasanqua*

特徴: 単葉・互生・鋸歯・常緑・ほぼ無毛: 葉はほぼ無毛だが、よく見ると小枝や芽には毛がある。同じ属のヤブツバキは葉が大きく、全く毛がない。



ヤブツバキ、サザンカともに幹は割れ目が少なくなめらかで、白っぽい。



野生種の花

品種改良種の花



芽や小枝に、短毛



ヤブツバキ 無毛



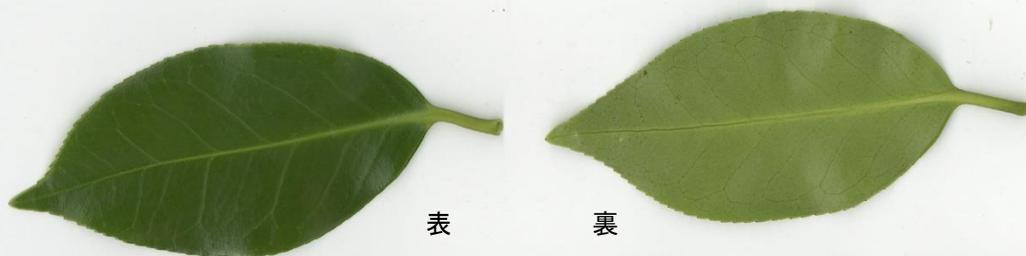
表

裏

65 ヤブツバキ(ツバキ科) *Camellia japonica*



特徴: 単葉・互生・鋸歯・常緑・ほぼ無毛: 葉や小枝には全く毛がない。葉全体に細かい鋸歯があり、葉の色が濃く厚い葉。幹が白っぽい。



66 ウバメガシ(ブナ科) *Quercus phillyreoides*

特徴: 単葉・互生・鋸歯・常緑・有毛: 葉の裏が薄茶色の毛でおおわれている。葉が枝先に集まりやすい。幹は茶色。海岸に多い低木で、材が硬く、焼くと良い炭になり備長炭と呼ばれる



表



裏

67 イチイガシ(ブナ科) *Quercus gilva*

特徴: 単葉・互生・上半部に鋸歯・常緑・有毛: 特徴: アラカシと葉の形は似ているが、少し細い。葉の裏が薄茶色の毛でおおわれているので容易に区別できる。高木になり、照葉樹林に出現する。



葉裏をビロード状におおう毛。



68 シラカシ(ブナ科)

Quercus myrsinifolia

特徴: 単葉・互生・上半部に鋸歯・常緑・無毛: 特徴:
アラカシとの区別が難しいが、少し細い。葉の裏に
毛がないのでイチイガシとは区別できる。
高木になり関東には多いが、鹿児島では公園など
に植栽されるが自然林では稀。



69 アラカシ(ブナ科) *Quercus glauca*

単葉互生

和名順

科名順

特徴: 単葉・互生・上半部に鋸歯・常緑・ほぼ無毛: 特徴: シラカシより幅が広い。葉の裏に毛がないのでイチイガシとは区別できる(春の若葉には少しある)。

高木になり、鹿児島県の低地の照葉樹林ではごく普通。



←カシ類は左の様な
ドングリを作る。

葉裏: 白っぽいが→
無毛。学名の
*glauca*は白っぽい
という意味



70 シャリンバイ(バラ科)

Rhaphiolepis indica var. *umbellata*

特徴: 単葉・互生・鋸歯・常緑・無毛。鋸歯が目立たない。全体の葉の形がトベラ似ているが、ちぎってもトベラのような臭いにおいがない、トベラより葉が硬い。海岸に生える低木。

奄美大島ではこの材を燃やした灰を、大島紬の染色に使う。



表

裏



葉裏に細脈がよく見え、縁にわずかな鋸歯

71 ホルトノキ(ホルトノキ科) *Elaeocarpus zollingeri*

特徴: 単葉・互生・鋸歯・常緑・無毛。常緑樹の中では比較的薄い葉。少しずつ新しい葉を作り、古くなった葉を落とす性質があるが、赤くなった古い葉が木のどこかにあることが普通。



表

裏



72 ヤマモモ(ヤマモモ科)

Morella (旧 *Myrica*) *rubra*

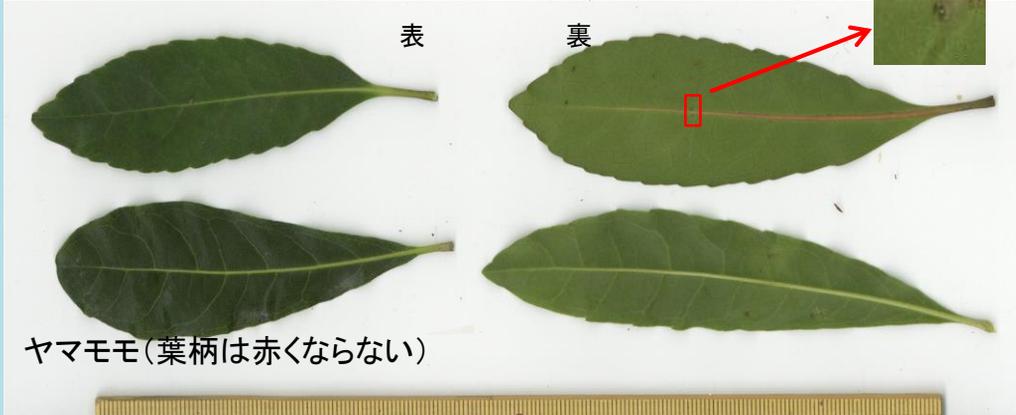
特徴: 単葉・互生・鋸歯・常緑・無毛。常緑樹の中では比較的薄い葉で、ホルトノキとよく似ている。赤くなった古い葉がないこと、幹がヤマモモは白っぽく、ホルトノキは黒っぽいこと、葉裏の主脈と側脈の交点に水かき状のものができることで区別できる。



雌株には初夏に直径2cmほどの赤い実ができ、食べられる。(学名の *rubra* は赤いという意味)

葉裏の主脈と側脈の交点に、水鳥の足の水かきの様な幕ができ、ダニが住んでいることがある。

ホルトノキ 葉柄が少し赤いことが多い(赤くないこともある)。



ヤマモモ(葉柄は赤くならない)

73 ハイビスカス(アオイ科) *Hibiscus*

特徴: 単葉・互生・鋸歯・常緑・無毛。3主脈になっている。鋸歯が大きい低木。



脈は3主脈になっている。葉は上の写真のようにきれこまないことが普通だが若い葉などでは、下の写真のように3つに分かれることもある。



74 バクチノキ(バラ科)

Laurocerasus(旧*Prunus*) *zippeliana*

特徴: 単葉・互生・鋸歯・落葉・無毛:

今は別の属にされているがかつてはサクラと同属だった。大きく厚い葉で、サクラと同じように葉の基部に蜜腺があることで区別できる。



蜜腺

大きくなると皮が赤くなり次々剥がれる。その様が、博打打が身ぐるみ剥がされることを連想させて”博打の木”の名前になった。

秋に小さな白い花をつける



和名順1

[検索へ戻る](#)[はじめに戻る](#)

和名	科名	掲載番号	学名
1 アオギリ	アオイ(アオギリ)	9	<i>Firmiana simplex</i>
2 アコウ	クワ	54	<i>Ficus superba</i> var. <i>japonica</i>
3 アジサイ	アジサイ(ユキノシタ)	33	<i>Hydrangea macrophylla</i>
4 アラカシ	ブナ	69	<i>Quercus glauca</i>
5 イスノキ	マンサク	49	<i>Distylium racemosum</i>
6 イチイガシ	ブナ	67	<i>Quercus gilva</i>
7 イチョウ	イチョウ	39	<i>Ginkgo biloba</i>
8 イヌビワ	クワ	41	<i>Ficus erecta</i>
9 イヌマキ	マキ	4	<i>Podocarpus macrophyllus</i>
10 ウスギモクセイ	モクセイ	38	<i>Osmanthus fragrans</i> var. <i>thubergii</i>
11 ウバメガシ	ブナ	66	<i>Quercus phillyreoides</i>
12 エノキ	アサ(ニレ)	57	<i>Celtis sinensis</i>
13 カイクウズ	マメ	15	<i>Erythrina pulcherrima</i>
14 カイツカイブキ	ヒノキ	5	<i>Juniperus chinensis</i>
15 カナリーヤシ	ヤシ	20	<i>Phoenix canariensis</i>
16 キソケイ	モクセイ	17	<i>Jasminum humile</i> var. <i>revolutum</i>
17 キバンジロウ	フトモモ	28	<i>Psidium littorale</i>
18 キョウチクトウ	キョウチクトウ	25	<i>Nerium oleander</i> var. <i>indicum</i>
19 ギンモクセイ	モクセイ	37	<i>Osmanthus fragrans</i> var. <i>fragrans</i>
20 グアバ	フトモモ	31	<i>Psidium guajava</i>
21 クスノキ	クスノキ	51	<i>Cinnamomum camphora</i>
22 クチナシ	アカネ	30	<i>Gardenia jasminoides</i>
23 クロガネモチ	モチノキ	48	<i>Ilex rotunda</i>
24 クロマツ	マツ	2	<i>Pinus thunbergii</i>
25 ケヤキ	ニレ	58	<i>Zelkova serrata</i>

和名順2

	和名	科名	掲載番号	学名
26	ゴモジュ	レンプクソウ	35	<i>Viburnum suspensum</i>
27	サクラ	バラ	60	<i>Cerasus (Prunus)</i>
28	サザンカ	ツバキ	64	<i>Camellia sasanqua</i>
29	サツキ	ツツジ	44	<i>Rhododendron indicum</i>
30	サンゴジュ	レンプクソウ(スイカズラ)	39	<i>Viburnum odoratissimum</i> var. <i>awabuki</i>
31	シマウリカエデ	ムクロジ(カエデ)	7	<i>Acer insulare</i>
32	シマトネリコ	モクセイ	14	<i>Fraxinus griffithii</i>
33	シャリンバイ	バラ	70	<i>Rhaphiolepis indica</i> var. <i>umbellata</i>
34	シュロチク	ヤシ	10	<i>Rhapis humilis</i>
35	シラカシ	ブナ	68	<i>Quercus myrsinifolia</i>
36	スダジイ	ブナ	49	<i>Castanopsis cuspidata</i>
37	センダン	センダン	24	<i>Melia azedarach</i>
38	ソテツ	ソテツ	18	<i>Cycas revoluta</i>
39	ダイサンボク	モクレン	56	<i>Magnolia grandiflora</i>
40	タチバナモドキ	バラ	46	<i>Pyracantha angustifolia</i>
41	チシャノキ	ムラサキ	61	<i>Ehretia acuminata</i> var. <i>obovata</i>
42	ツクバネウツギ	リンネソウ	34	<i>Abelia spathulata</i>
43	ツツジ	ツツジ	45	<i>Rhododendron</i>
44	トウシュロ	ヤシ	11	<i>Trachycarpus wagnerianus</i>
45	トウネズミモチ	モクセイ	29	<i>Ligustrum lucidum</i>
46	トクサバモクマオウ	モクマオウ	6	<i>Casuarina equisetifolia</i>
47	トベラ	トベラ	53	<i>Pittosporum tobira</i>
48	ナンキンハゼ	トウダイグサ	41	<i>Triadica sebifera</i>
49	ナンテン	メギ	21	<i>Nandina domestica</i>
50	ハイビスカス	アオイ	73	<i>Hibiscus</i>

	和名	科名	掲載番号	学名
51	バクチノキ	バラ	74	<i>Laurocerasus zippeliana</i>
52	ハクチョウゲ	アカネ	27	<i>Serissa japonica</i>
53	ハクモクレン	モクレン	43	<i>Magnolia denudata</i>
54	ハマヒサカキ	モッコク	63	<i>Eurya emarginata</i>
55	ヒイラギナンテン	メギ	22	<i>Berberis japonica</i>
56	ヒトツバタゴ	モクセイ	26	<i>Chionanthus retusus</i>
57	ヒマラヤスギ	マツ	1	<i>Cedrus deodara</i>
58	ビロウ	ヤシ	12	<i>Livistona chinensis</i> var. <i>subglobosa</i>
59	フトモモ	フトモモ	32	<i>Syzygium jambos</i>
60	ブラジルヤシ	ヤシ	19	<i>Butia capitata</i>
61	ホソバデイゴ	マメ	16	<i>Erythrina crista-galli</i>
62	ホソバヒイラギナンテン	メギ	23	<i>Berberis fortunei</i>
63	ホルトノキ	ホルトノキ	71	<i>Elaeocarpus zollingeri</i>
64	マサキ	ニシキギ	36	<i>Euonymus japonicus</i>
65	マメツゲ	モチノキ	62	<i>Ilex crenata</i> f. <i>bullata</i>
66	ミカン	ミカン	52	<i>Citrus</i>
67	ムクノキ	アサ(ニレ)	59	<i>Aphananthe aspera</i>
68	モッコク	モッコク(ツバキ)	47	<i>Ternstroemia gymnanthera</i>
69	モミジバフウ	フウ(マンサク)	8	<i>Liquidambar styraciflua</i>
70	モミノキ	マツ	3	<i>Abies firma</i>
71	ヤブツバキ	ツバキ	65	<i>Camellia japonica</i>
72	ヤマモモ	ヤマモモ	72	<i>Morella rubra</i>
73	ユズリハ	ユズリハ	55	<i>Daphniphyllum macropodum</i>
74	ワシントンヤシ	ヤシ	13	<i>Washingtonia filifera</i>

	科名	和名	掲載順
1	アオイ	ハイビスカス	73
2	アオイ(アオギリ)	アオギリ	9
3	アカネ	クチナシ	30
4	アカネ	ハクチョウゲ	27
5	アサ(ニレ)	エノキ	57
6	アサ(ニレ)	ムクノキ	59
7	アジサイ(ユキノシタ)	アジサイ	33
8	イチョウ	イチョウ	40
9	キョウチクトウ	キョウチクトウ	25
10	クスノキ	クスノキ	51
11	クワ	アコウ	54
12	クワ	イヌビワ	42
13	センダン	センダン	24
14	ソテツ	ソテツ	18
15	ツツジ	サツキ	44
16	ツツジ	ツツジ	45
17	ツバキ	サザンカ	64
18	ツバキ	ヤブツバキ	65
19	トウダイグサ	ナンキンハゼ	41
20	トベラ	トベラ	53
21	ニシキギ	マサキ	36
22	ニレ	ケヤキ	58
23	バラ	サクラ	60
24	バラ	シャリンバイ	70
25	バラ	タチバナモドキ	46

	科名	和名	掲載番号
26	バラ	バクチノキ	74
27	ヒノキ	カイヅカイブキ	5
28	フウ(マンサク)	モミジバフウ	8
29	フトモモ	キバンジロウ	28
30	フトモモ	グアバ(=バンジロウ)	31
31	フトモモ	フトモモ	32
32	ブナ	アラカシ	69
33	ブナ	イチイガシ	67
34	ブナ	ウバメガシ	66
35	ブナ	シラカシ	68
36	ブナ	スタジイ	49
37	ホルトノキ	ホルトノキ	71
38	マキ	イヌマキ	4
39	マツ	クロマツ	2
40	マツ	ヒマラヤスギ	1
41	マツ	モミノキ	3
42	マメ	カイコウズ	15
43	マメ	ホソバデイゴ	16
44	マンサク	イスノキ	50
45	ミカン	ミカン	52
46	ムクロジ(カエデ)	シマウリカエデ	7
47	ムラサキ	チシャノキ	61
48	メギ	ナンテン	21
49	メギ	ヒイラギナンテン	22
50	メギ	ホソバヒイラギナンテン	23

	科名	和名	掲載番号
51	モクセイ	ウスギモクセイ	38
52	モクセイ	キシケイ	17
53	モクセイ	ギンモクセイ	37
54	モクセイ	シマトネリコ	14
55	モクセイ	トウネズミモチ	29
56	モクセイ	ヒトツバタゴ	26
57	モクマオウ	トクサバモクマオウ	6
58	モクレン	ダイサンボク	56
59	モクレン	ハクモクレン	43
60	モチノキ	クロガネモチ	48
61	モチノキ	マメツゲ	62
62	モッコク(ツバキ)	ハマヒサカキ	62
63	モッコク(ツバキ)	モッコク	47
64	ヤシ	カナリーヤシ	20
65	ヤシ	シュロチク	10
66	ヤシ	トウシュロ	11
67	ヤシ	ビロウ	12
68	ヤシ	ブラジルヤシ	19
69	ヤシ	ワシントンヤシ	13
70	ヤマモモ	ヤマモモ	72
71	ユズリハ	ユズリハ	55
72	リンネソウ(スイカズラ)	ツクバネウツギ	34
73	レンプクソウ(スイカズラ)	ゴモジュ	35
74	レンプクソウ(スイカズラ)	サンゴジュ	39

終わりに

学名について

各植物ページの右上付近にあるアルファベット表記は、学名です。

学名は2名法という方法で書かれ、左が属名、右が種小名です。

ラテン語で書かれ、属名は名詞、種小名はそれを形容する形容詞です。

ラテン語では名詞に性があり、それによって形容詞の形が変わります。

たとえば日本のという意味を表したくても、属名が男性名詞ならば*japonicus*、女性ならば*japonica*、中性ならば*japonicum*になります。また普通はイタリック表記します。

種をさらに細分した変種(variety)や品種(forma)を表したいときには、種小名に続けて、*var. japonica*などとします。

学名を決めた命名者も種小名に続けて書くことが正式ですが、長くなるので省略しました。

2017年10月

鈴木英治（理工学研究科 地球環境科学専攻）

鹿児島大学共通教育棟周辺の植物

鹿児島大学教養科目教育 植物学入門 資料